

Up Next

The Government's vision for the broadcasting sector

●和訳グループ

英国のデジタル・文化・メディア・スポーツ省 (DCMS : Department for Digital, Culture, Media and Sport) は、『Up Next The Government's vision for the broadcasting sector』という放送政策全般を見直すホワイトペーパーを4月28日に発表した。

1922年11月の放送開始から100年を迎えるBBCに対し、単なる祝賀の年にするのではなく、今後のビジョンを考える時にすべきだとしている。BBCが英国社会だけでなく国際的に貢献している役割を積極的に評価し、今後もより重要な存在であり続けるべきだとしながらも、「受信許可料」という財源の在り方に切り込んでいる。

BBCの事業執行を認めてきた現在のロイヤルチャーター(BBCの事業認可を意味する「女王の特許状」)は2027年に切れる。2028年からの次期ロイヤルチャーターが発効される前にBBCのビジョンを再検討し、その方向を数カ月以内に示すと明記している。

こうした内容から、今後の数年間は受信許可料という伝統的な公共放送を支える仕組みの終わりとなる可能性もある。控えめに言っても、大きな変容に向けた曲がり角になるのではないだろうか。

日本でも同様にデジタル時代の放送制度議論が進む。その議論の参考に「Executive summary」と、「Chapter 2 : Ensuring our publicly owned broadcasters can continue to thrive」のうちBBCに関する記述部分、「Chapter 3 : A new system of public service broadcasting for a new era」、「Chapter 4 : A vibrant broadcasting ecology」、「Chapter 5 : New and emerging technologies」の抄訳を本号(7月号)と次号(8月号)で掲載する。

本号では、「Executive summary」と「Chapter 2」、「Chapter 3」の「3.2 Ensuring public service content is easy to find and watch = 公共サービスのコンテンツを簡単に見つけられるように」までを掲載し、残りは次号で掲載する。

Executive summary

英国のクリエイティブ産業は世界的にみてサクセスストーリーであり、私たちの公共サービス放送局(訳注:公共企業体として運営されるBBC、チャンネル4、ウェールズ語放送のS4Cのほか、民営のITV、STV、チャンネル5を含めた6つの「地上波の放送局」)やそのサービスを公共サービス放送(局)(PSB: Public Service Broadcasting(-er)と規定)は、その成功の中核となっています。これらの放送局は、英国はもち

ろん世界中で愛されている素晴らしい英国のコンテンツを生み出しています。政府はPSBがその地位にとどまることを望んでいます。

ラジオとテレビは依然として強力な価値のあるメディアであり、英国では意義深い公共的な価値を提供しています。人口の89%が毎週ラジオを聴いています。注目すべきことに、この数字は過去10年間一貫しています。2022年3月のリニアテレビの総視聴時間は